

I 経営の重点に関わること

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心豊かでたくましい子ども	先生や友達と一緒ににお気に入りのを見つけよう	子どもたちが、自分から遊び出し「もっとやりたい」「明日も遊ぼう」と気持ちがつながっている	○自分が使いたい様々な素材や教材をすぐに取り出すことができるような環境を作ったり、製作途中の物を棚の上にとりおおくことで、次の日も自分たちから遊び続ける姿が見られるようになってきた ●遊びが続くように残しておいた物が次には続かず、そのままになっていることもある	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 園の方針に沿って、ベテランと若い保育教諭が意見を出し合って保育していることが良い 小さい時から褒めたり認めたりしてもらい自己肯定感を高めていくことが大事にしていきたい 子どもたちも挨拶をする時に「○○ちゃん、おはよう」と名前を呼ぶことが増えて、嬉しく思う 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの遊びや様子をよく見取り、素材や教材の提供や環境を準備していく。また、遊びの終わり方を見極め、とりおおく方法を考えていく 一人一人の良さや得意分野が発揮されるような保育環境と保育内容を準備していく 自己肯定感が上がる声掛けをしていき自分が満たされることで、周りの友達へ目が向くようにしていく 職員も一人一人に「○○ちゃんおはよう」と、挨拶する時にその子の名前を付けて特別感を出すようにしていく
		自分や友達の良さに気づき、認め合いながら遊んでいる	○異年齢の関わりの中で、相手を意識し自分には出来ないことができる友達に憧れの気持ちをもちたり、友達を手伝ってあげたりする姿が見られる ●子どもの良さを保護者や友達の前で保育教諭が伝えていくことで、少しずつ友達の良さに気づき始めている子もいるが、まだ自分中心な子もいる	B	A		
		子どもたちから日常のあいさつをしている 戸外でのびのびと身体を動かして遊んでいる	○職員が挨拶を繰り返していくことで、「○○先生、おはよう」と元気よく挨拶をする子が増えてきた ○戸外で遊ぶことを楽しみにし、タイヤやコンテナなどの様々な用具を使いながらのびのびと体を動かしている	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	一人一人に合った環境構成や援助を週案会議で共有し、つながりのある教育・保育を実施している	○乳児・幼児のつながりを考えながら、毎週週案会議で環境構成や援助について話し合いをしている ○コロナ禍や工事中でも園庭の使い方を工夫し、他学年との関わりやつながりをもつ機会を作るようにしている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> この時代だからできないやれないのではなく、今やれることを一生懸命にやしてほしい 工事の関係で狭くなっている園庭や部屋の環境を工夫している。工事が終わってから後も続けてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も週案会議を続けていき、環境構成や保育教諭の関わり方をおさえ共有しながら一人一人に合った教育保育をしていく 園児一人一人の家庭での生活の連続性を考慮しながら、環境構成の工夫や職員間の連携をし、遊びや活動の流れを作っていく 子どもの興味や発達に合わせた環境の話し合いをし、再構成をしていく 保育教諭も子どもの姿や遊びの展開を予測し自分たちも楽しみながら環境を準備していく 職員各自がヒヤリハットを意識し気付いた箇所を改善して、子どもたちの安全安心を守っていくよう職員間で共有していく 不審者対応やフローチャートの見直しをする
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活やリズムに合わせ、安心して過ごせるようにしている	○個々の様子を職員間で伝達し合い、登園から降園までの情報を共有して、子どもたちが安心して過ごせるように心掛けている ○保護者から体調の聞き取りを行い、その子に合った関わりをするようにしている	A	A		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもたちが自分から遊び出せるような環境構成の工夫をしている	○遊びに必要なタイヤやコンテナ、お風呂マットなどの数を増やしたり、子どもが自ら取り出しやすい環境を用意したりして、子どもたちから遊びを見つけられるよう環境を工夫している ●合同保育での狭い空間のため環境作りが難しく、日々の保育の中で環境の再構成があまりできなかった	B	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	職員一人一人が安全危機管理の意識をもち、事故防止につなげている	○自園で起こった事件や事故でなくても、すぐに園内研修を行い自分事として捉えることができている。また、危険箇所を見つけた時やヒヤッとした時は声に出すすぐに対応したり職員間で共有するなど、安全に十分注意を払うようにしている ○月1回避難訓練や2か月に1回不審者対応訓練を行い、防災の意識を高めている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員は時間のない中、教材研究をしていることに驚いた。ベテランと若い職員が力を合わせて保育を高めていることが良いと思う 保護者の協力のもと、少人数の強みを活かして保育をしていることが良い。これからも人数が少ないからできないのではなく、できることを進めていってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時に子どもの様子をわかりやすく、端的に話をしていく。 現状は面談が前半に1回なので、成長面や課題を伝えていくために後期にも設けていきたい 友達や周りの子が一人一人の良さを認められるよう、発達や特性を十分に理解して指導方法の工夫をしていく 園全体で一人一人の子どもの様子を把握できるよう、引き続き会議などで共有したり専門機関との連携を図っていく 今後も、朝の打ち合わせファイルなどを活用し伝え漏れがないように確認していく。また、職員一人一人が意識を高くもち、わからないことは自分から声をあげたり周囲に確認するなど行動に移していく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	基本的な生活習慣の自立に向けて、家庭と連携を取りながら個々に合った援助を行っている	○参加会の面談や送迎時に園での様子を伝えたり家庭の様子を聞くなど、生活習慣が身につけられるよう家庭と連携している ○その子に合わせた声掛けや見守りをしながら、一人一人に合った援助を行い、生活習慣の自立を進めている ●送迎時に駐車場が混み合うため、保護者に子どもの様子を伝える時間が短くなってきている	A	A		
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	全職員で個々の発達を理解して共有し一人一人に合った関わりをしたり、トーマスの会を開催し、必要に応じて専門機関と連携を図ったりしている	○週案会議や職員会議で個々の姿について情報を伝え合い話し合いをすることで、クラスだけでなく園全体で子どもたちを見守り対応策などを共有している ○子どもの様子を面談等で保護者に知らせ、必要があれば専門機関につなげている。関係機関とも連携を取り、参観したりアドバイスをもらったりしてコミュニケーションを深めた	A	A		
5 組織運営	(1)組織体制の充実	報・連・相で職員の連携を図りながら、協力して教育・保育を進めている	○職員会議、週案会議、幼児、乳児会議等で保育について話し合い、共通意識をもって連携し合う体制を整えている。また、会議記録や朝の打ち合わせファイルで決定事項を共有している ●職員間で報・連・相を心掛けているが、細かい部分で伝え漏れがあり行事の準備や内容など職員の連携が取りづらいこともある	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が相談するとすぐに対応してくれるので、保護者は園に満足しています。これからもお願いしたい 地域の神社を氏神様として参拝に来てくれるのがうれしい。輪くぐりなどなかなかできない経験もある。由来などの碑を立てていこうと思っているので、来年度も小黒神社で来てほしい。また、地域にはお地蔵さんの祭りもあるので、参加できるといいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数ならではの良さを生かし、積極的に意見交換をしながら、研修テーマを基に園全体の教育保育を高めていく 発達を押さえながら、目の前の子どもの姿を捉えて環境を用意していく。また、研修などで学んだことは教材研究などを通して職員間で共有していく 保護者の方にポートフォリオやボードを見ってもらうために、貼り出す場所や大きさ、見やすさなどを考え工夫していく 送迎時じっくり話す機会がもてないので、面談などの時間を作っていく コロナ禍ではあるが、引き続きできる範囲での交流の機会を作っていく 八幡こども園との交流で、集団の刺激を受けながら、遊びの幅を広げられるような内容を考えていく。交流後、職員が振り返りをするように工夫していきたい
6 研修	(1)研修体制の充実	公開保育や教材研究を通して、研修テーマに沿った研修を行っている	○年間計画を基に計画的に研修を進めている。公開保育では、常に研修テーマに沿って話し合い次につながるような意見交換をしている ○中間の園評価の反省から、子どもの発達や興味に合わせたその時期の教材研究を取り入れ、保育教諭一人一人の保育の幅が広がってきている	A	A		
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	季節の遊びや発達に応じた遊びができるよう教材や環境を整えている	○季節の歌や手遊び、絵本を取り入れたり、環境学習で地域の公園の自然物に触れたりした ○子どもたちの遊びや発達を考え、楽しめそうな教材や環境を準備している。また、行事等の準備も子どもたちと一緒に楽しみながら行っている ●環境を一度整えると、その状態のまま変えなかったり使い終わった後の片付けができていないことがあった	B	A		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもたちの遊びや生活の様子、園の取り組み等を保護者にわかりやすく伝え、子どもの育ちを共有している	○行事はわかりやすいように視覚的にポートフォリオ（写真）を用いて、その日に知らせている ○日々、園での様子や取り組みは、クラスだよりやボード、連絡ノート、送迎時に口頭でわかりやすく伝え、保護者とコミュニケーションをとっている ○保護者アンケートや直接いただいた意見で、できることはすぐに改善し対応している	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 視覚特別支援学校や八幡こども園との子ども同士の交流、園の公開保育に近隣園の保育教諭が参加し、子どもも保育教諭も貴重な経験になっている。また、視覚特別支援学校との交流では劇発表を見せていただいた後に大道具を借りるなどさらに踏み込んだ交流ももつことができた 近隣の小学校との公開授業や意見交換会に参加している。子どもたちも小学校の中を探検させてもらったり避難訓練で運動場を借りたりとできる範囲で連携をとっている 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も引き続き、自分たちが対応できるものは積極的に関わっていく 職員から積極的に地域の方に声をかけ情報を収集したり自分たちで探ったりしながら新たな地域の自然や行事を知っていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	自分たちから積極的に近隣の小学校や園との交流を図っている	○視覚特別支援学校や八幡こども園との子ども同士の交流、園の公開保育に近隣園の保育教諭が参加し、子どもも保育教諭も貴重な経験になっている。また、視覚特別支援学校との交流では劇発表を見せていただいた後に大道具を借りるなどさらに踏み込んだ交流ももつことができた				
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の自然や行事に触れる機会をもち、地域に親しまれる園になっている	○小黒神社の輪くぐりや七五三参りなど昔からの地域の伝統や、勤労感謝訪問やハロウィンパレードで地域と触れ合う機会を作っている。また園見学希望者も快く受け入れどの職員も声をかけ親しみもてるようにしている ●散歩に出かけた時には、地域の方に挨拶をしたり言葉を交わしたりしているが、コロナ禍で地域の行事に触れる機会が以前より少なくなっている	A	A		